

四境の役一五〇周年連載コラム①

大島商船高等専門学校 准教授 田口由香

来年二〇一六年は、四境の役から一五〇年を迎えます。今月号より、なぜ長州藩と幕府は戦ったのか、開戦地となった大島口ではどのような戦いがあったのかなど広報紙で紹介します。

▼四境の役とは？

慶応二年（一八六六）六月七日、周防大島の地で、長州藩と徳川幕府との戦い「四境の役」が開戦しました。この戦いは九月には休戦になりますが、事実上の長州藩勝利で終わります。翌年には幕府が倒れ、王政復古の号令が出されたことから、四境の役は明治維新に大きな影響を与えたと考えられています。近年、この戦いは「幕長戦争」や「長州戦争」と呼ばれますが、特に山口県では、長州藩（周防・長門）の四つの国境である大島口・芸州口（安芸）・石州口（石見）・小倉口が戦場になったことから、「四境の役」または「四境戦争」という呼び方が親しまれています。

◎次回は戦いの発端となった「禁門の変」についてです。



四境戦争図「大島ぐんの図会」
(山口県立山口博物館所蔵)

このコーナーはPDF版では掲載しておりません。

周防大島町ホームページ

<http://www.town.suo-oshima.lg.jp>

Eメール

seisakukikaku@town.suo-oshima.lg.jp

発行◆山口県周防大島町

編集◆政策企画課（周防大島町大字小松126-2）

☎0820（74）1007

印刷◆中村印刷㈱ ※広報すおう大島は再生紙を使用しています。